

# よしきい

2020年7月12日



ヤマモモ、完熟まであと一歩！

## 目次

- 公園の風景
  - 野性味いっぱい . . . . . 1
  - ハルシオン・テイズ . . . . . 1
  - 野鳥写真展終了しました . . . . . 1
- Sさんカエル池をつくる その⑤・2
- みんなのひろば
  - アジガモをご存知ですか? . . . . . 2
- 活動紹介
  - さわやか！初夏の秋吉台に行く . . . . . 3
  - アンケート調査をしました . . . . . 3
  - 今年こそ「夏・子」 . . . . . 3

発行：「葦の会」機関紙チーム  
事務局：〒754-1277 山口市阿知須 509-53  
きらら浜自然観察公園内  
電話 0836-66-2030 (FAX 66-2031)

「葦の会」はきらら浜自然観察公園を中心に、自然を知り・親しみ・守る団体です。自然を楽しみながら、その素晴らしさを伝える活動をしています。ご一緒しませんか？

**会員募集中！（高校生以上）**

# 公園の風景

## = 野性味いっぱい =

公園の正面ゲートからビジターセンターへ向かう園路の両側にはヤマモモの木が何本も見受けられます。初夏にはまん丸の実をつけ、気付かずに通り過ぎることはまずありません。昨年是不作の年でしたが今夏は良い実りを得ました。



2020/3/18



2020/4/1

房総半島以西の日本、台湾、フィリピン、濟州島、中国に分布するヤマモモ科の樹木です。雌雄異株の常緑樹で15m程の高さに成長しますが、雌株がつける果実が暗紅紫色に熟すと落下し、道路を汚すため街路樹には雄株が用いられています。

でも、何といたってもヤマモモは果実です。生食はもちろん、ジャムやシロップ、果実酒などで

も楽しめます。松脂まつやじのような野性味と酸味の中に感じるほのかな甘さは独特です。

実が付き始め、初めて気付くヤマモモですが、房状に垂れ下がる地味な赤褐色の花が如何にして丸い実になるのかカメラで追ってみました。(表紙写真6/21)



2020/5/17



2020/6/14

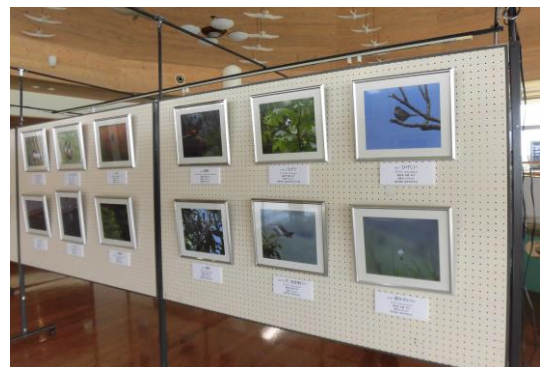
## = ハルシオン・テイス =

蒸し暑い中、園路を歩いていると青い軌跡が横切り、一瞬の涼を与えてくれることがあります。その正体はカワセミ。漢字で書くと翡翠、カワセミの雄(翡)と雌(翠)という意味で、宝石のヒスイ(翡翠)は色がカワセミのようであることから名づけられたそう。また“清流の宝石”“飛ぶ宝石”のような異名を持ち、美しい鳥の代表格です。ちなみに同じ仲間のブッポウソウ目には“森の宝石”ブッポウソウ、“ルビー色”のアカショウビンがいて、まばゆいばかりの宝石揃い！一方、ヨーロッパでは「カワセミの日々(Halcyon days)」という“平穏な時代”を意味する成語があり、カワセミは平和や幸福の前兆なのだとか。公園でせっせと餌捕りをしている「カワセミの日々」を温かく見守りたいものですね。



## = 野鳥写真展 終了しました =

公園のビジターセンターで開かれていた野鳥写真展が終了しました。一般公募により日本国内で撮影された野鳥の、可愛いばかりでなくたくましく生きる、生き生きとした写真103点がユーモラスなタイトルと共に展示され来客の目を楽しませていました。毎年、小、中、高校生の愛鳥週間ポスター入選作品の展示もあります。見逃した方、来年は是非見に来てください。



## Sさん カエル池を造る・・・その⑤



PICTA\_ID - 8087710

2018年7月19日 産卵から41日目、オタマジャクシにやっと前足が出た。(後ろ足が見え始めてから20日後)

7月20日 小指の爪ほどの小ガエルの完成。かわいい！



前足が出るとオタマジャクシは尾を栄養にして成長するので、餌は食べなくなります。朝、前足が出たと思ったら夕方には尾が短くなっていて、オタマジャクシだった時の丸い顔が角張ったカエルの顔になって、池の中の藻の上に乗っていました。呼吸もエラ呼吸から肺呼吸に変わり、陸に上られるようになりますが陸がないとおぼれ死んでしまいます。

42日で完成したかわいい小ガエル達。前足が出てからの急速な変化には驚きました。私たちの祖先も海から陸に上る時には、このような変化があったのでしょうか。

(次号に続く)



## みんなのひろば😊

### アジガモをご存じですか？



趣味の陶芸でトモエガモを作ってみました。

きらら浜自然観察公園の所在地、阿知須の由来となっている鴨です。公園のマスコットバードにもなっています。

トモエガモはオスの顔に巴(ともえ)の模様があります。

カモ類の中では最も美味であることから、古くはアジガモ(味鴨)といわれていたそうです。昔、阿知須には晩秋になるとシベリアからたくさんのアジガモが飛来して、水辺の洲(ス)に群れていたことから、阿知須(アジ・ス)となったといわれています。

近年、日本での生息数が減っていることは残念ですね。(K.Y)



# 活動紹介

## = さわやか！初夏の秋吉台を行く♪ =

6月恒例の葦の会の研修旅行、今年は3密を避けるために団体行動は自粛し、好天に恵まれた6月7日、現地集合&解散方式の公園主催のイベント「秋吉台の自然をたずねて」に参加しま



石灰岩の上で囀るヒバリ



した。会からはOBも含め9名と同伴の家族2名です。コロナの自粛緩和とも重なり多数の老若男女が集った観察会となりました。

壮大な秋吉のカルスト台地の緑の中に絶滅危惧種のフナバラソウを見つけ、ホオジロとホオアカの鳴き声の違いを確かめ、造巢中のヒバリをじっくり観察、遠くの森からはカッコウの声も聞こえました。例年とは違う形での実施



フナバラソウ

でしたが、脳も体もリフレッシュ！気持ちの良い一日でした。

## = アンケート調査をしました =

葦の会も来年、設立から20周年を迎えるにあたり、会員の意向を再検討するために会員アンケートを実施しました。皆様ご協力ありがとうございました。様々な意見やアイデアが提供され、もっと学びたい・活動したいという熱い思いや、より良い運営への仕組みづくりの必要性などの課題も見えてきました。それらを踏まえ、レンジャーによるミニ講座や公園スイーツ制作など、すでに新しいチャレンジも始まっています。これを機にちょっと疎遠になっていた会員の方、新たに葦の会に興味を持たれた方、公園に足を運ばれてはいかがでしょうか。

## = 今年こそ「夏・子」 =

コロナウイルスによる公園の閉館や行事自粛が数か月にわたりましたが、恒例の「夏休み早朝子ども観察会」は7月26日(日)に開催します。今年はいつもとよりたくさんの応募がありました。長期の行動制限下で日々を過ごしていた子ども達に自然観察や昆虫採集を楽しんでもらいたいです。

編集後記

5月末に発行を予定していた「よしきり105号」は、新型コロナウイルスの感染防止のため急ぎよ編集作業を中止しました。ようやく緊急事態宣言が解除され、一か月半遅れで発行できる運びとなりました。これまでよしきりは奇数月の月末に発行していましたが、今号より奇数月半ばの発行に変わります。これからも「機関紙よしきり」をよろしくお願いいたします。

この夏も暑くなりそうです。コロナ対策とともに熱中症にも気を付けて頑張りましょう！

(E. K)